

施設ごとの方向性(個票)

1

施設名	大阪府立弥生文化博物館		所在地	和泉市池上町4-8-27		
施設所管課	教育委員会事務局 文化財保護課		開設年	平成3年2月2日		
施設の概要	設置目的	歴史、民族等に関する資料を収集し、保管・展示して府民の利用に供し、もって府民の文化的向上に資するため、博物館法第2条第1項に規定する博物館として設置		府の収支 (18)決算	府収入	194千円
	管理者	(財)大阪府文化財センター			府支出	170,338千円
	規模 (収容人員等)	地階:一般収蔵庫(413㎡)、特別収蔵庫(112㎡)、資料図書室(87㎡)、セミナー室(30名・82㎡)、写真室(59㎡) 1階:ホール(140名・145㎡)、サロン(113㎡)、ロビー(279㎡)、会議室(16名・56㎡)、事務室(58㎡)、学芸室(117㎡)、館長室(29㎡) 2階:常設展示室1(644㎡、弥生文化の体感)、常設展示室2(201㎡、池上曾根遺跡展示)、特別展示室(232㎡) 駐車場(大型7台、普通80台) 建築延床面積:4,001㎡			府支出-府収入	170,144千円
		主な常設展示 西浦銅鐸(国重要文化財)、池上曾根遺跡出土木器77点他(府指定文化財)など			利用者1人あたり府費投入額	3,687円
				(19)施設職員数	(常勤職員数) 6名	
					(非常勤職員数) 1名	
施設建設時の財源内訳	総建設費5,190百万円(内施設建設費1,872百万円、土地購入費2,248百万円、展示工事費等1,070百万円) 全て一般財源					
利用状況	利用者数	一般	高・大学生	小・中学生	(18)稼働率・利用率	(特別展示室) 66%(4期200日開催) (講座・セミナー) 24回実施 ※稼働率=年間使用日数 ÷年間開館日数
		⑮44,710人 : 25,328	1,138	18,244		
		⑯43,952人 : 23,377	1,120	19,455		
		⑰38,140人 : 19,658	1,069	17,657		
		⑱46,143人 : 28,498	993	16,652		
		⑲45,000人(見込み) : 26,700	900	17,400		
		入館料(通常) : 300円	200円	無料		
		〃(特別展時) : 600円	400円	無料		
主な代替・類似施設	(国1施設):唯一の民俗学に関する大学共同研究施設 ・国立民俗学博物館(吹田市千里万博公園) ・昭和52年開設 ・建築延床面積:51,225㎡ ・入館料420円(府1施設) ・近つ飛鳥博物館(河南町大字東山) ・平成6年開設 ・建築延床面積:5,925㎡ ・入館料300円 (市町村45施設):地域密着型の歴史や文化の収蔵展示施設 ・大阪市立大阪歴史博物館(大阪市中央区大手前) ・平成14年開設 ・延床面積:23,694㎡ ・入館料600円 ・堺市市立堺市博物館(堺市堺区大仙公園内) ・昭和55年開設 ・入館料200円 ・八尾市立歴史民族博物館(八尾市千塚) ・昭和62年開設 ・入館料200円 (民間25施設):社史、コレクション中心の展示					
見直しの方向性	【廃止・他施設に集約化】 ・近つ飛鳥博物館への移転・集約化 ・展示物、資料等を厳選の上、移転。施設は売却(実施時期) 平成21年度中に実施					
見直しの理由	・総合歴史博物館をめざすため、近つ飛鳥へ移転し集約化 ・ただ、池上曾根遺跡展示部分は周辺施設と一体的に運営する方が望ましいことから、市への移管も検討					
見直しをした場合の効果	・博物館の集約化により、弥生時代、古墳時代、飛鳥時代の遺跡、遺物を通じた歴史文化の教育の場を効率的に提供できる ・当該地は、国道に面し博物館5施設の中でも比較的立地上の優位性があり、建物の構造上、他用途の利用も可能 [効果額(一般財源)]H20:0.19億円、H21:0.23億円 (※事務事業見直しによる削減見込み額(管理費等)のみ反映)					
見直しをした場合の課題	・移設費用、改修費が必要 ・収蔵庫スペース等の確保					
備考	・平成18年度末起債残高4.88億円 ・博物館法第23条:公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる					

施設ごとの方向性(個票)

2

施設名	大阪府立近つ飛鳥博物館			所在地	南河内郡河南町大字東山299	
施設所管課	教育委員会事務局 文化財保護課			開設年	平成6年3月25日	
施設の概要	設置目的	歴史、民族等に関する資料を収集し、保管・展示して府民の利用に供し、もって府民の文化的向上に資するため、博物館法第2条第1項に規定する博物館として設置			府収入	438千円
	管理者	(財)大阪府文化財センター			府支出	200,511千円
	規模 (収容人員等)	・展示フロア(1,317㎡):①近つ飛鳥と国際交流(1階)、②日本古代国家の源流(中階、地階)、③現代科学と文化遺産(地階) ・その他 地階:一般収蔵庫(531㎡)、ホール(170名、230㎡)、セミナー室(30名・82㎡)、写真室(62㎡)、映写室(282㎡) 1階:普及ゾーン(362㎡)、ロビー(256㎡)、特別収蔵庫(71㎡) 2階:特別収蔵庫(82㎡)、資料室(36㎡)、会議室(16名、52㎡)、事務室等(219㎡) 駐車場(大型5台、普通80台) 建築延床面積:5,925㎡ 主な常設展示 修羅(国重要文化財)、美園古墳埴輪(国重要文化財)、前塚古墳石棺・堂山古墳副葬品(府指定文化財)など	(18)府の収支	府支出-府収入	200,073千円	
			(19)施設職員数	利用者1人あたり府費投入額	2,080円	(常勤職員数) 7名 (非常勤職員数) 1名
施設建設時の財源内訳	総建設費7,703百万円(内施設建設費6,680百万円、進入道路663百万円、風土記の丘整備360百万円) 財源内訳(一般2,996百万円、起債4,707百万円)					
利用状況	利用者数	一般 高・大学生 小・中学生 無料ゾーン (15)90,427人: 22,609 2,532 8,457 56,829 (16)87,443人: 23,726 2,268 8,033 53,416 (17)85,639人: 22,509 1,788 7,301 53,771 (18)96,186人: 26,147 1,679 7,861 60,499 (19)97,000人: 28,000 1,700 7,300 60,000 ※(19)は見込み	(18)稼働率・利用率		(特別展示室) 62%(4期190日開催) (講座・セミナー) 24回実施 ※稼働率=年間使用日数÷年間開館日数	
	主な代替・類似施設	(国1施設):唯一の民俗学に関する大学共同研究施設 ・国立民俗学博物館(吹田市千里万博公園) ・昭和52年開設 ・建築延床面積:51,225㎡ ・入館料420円 (府1施設) ・弥生文化博物館(和泉市池上町) ・平成3年開設 ・建築延床面積:4,001㎡ ・入館料300円 (市町村45施設):地域密着型の歴史や文化の収蔵展示施設 ・大阪市立大阪歴史博物館(大阪市中央区大手前) ・平成14年開設 ・延床面積:23,694㎡ ・入館料600円 ・堺市市立堺市博物館(堺市堺区大仙公園内) ・昭和55年開設 ・入館料200円 ・八尾市立歴史民族博物館(八尾市千塚) ・昭和62年開館 ・入館料200円 (民間25施設):社史、コレクション中心の展示				
見直しの方向性	【他施設との集約化】 他の博物館施設を集約化し、より一層のコスト縮減に努める (実施時期) 平成21年度中に実施					
見直しの理由	・当該施設は府内最大規模を誇るため、博物館機能をここに集約化 ・府の総合歴史博物館に位置付け、弥生時代、古墳時代、飛鳥時代の遺跡、遺物を通じた歴史文化教育の拠点とするのが効果的					
見直しをした場合の効果	他施設との集約化による博物館トータル管理運営コストの縮減 [効果額(一般財源)]H20:0.19億円、H21:0.24億円 (※事務事業見直しによる削減見込み額(管理費等)のみ反映)					
見直しをした場合の課題	・他の展示物等を受入れるためには、館内展示物、収蔵物の再整理が必要で、場合によっては施設改修が伴う可能性がある ・収蔵庫スペース等の確保 ・ただ、大阪都心部から遠くアクセスも脆弱であり、広域的な利用者の拡大は望めないため、博物館の更なる魅力向上、PRが不可欠。運営の一層の効率化が必要					
備考	・平成18年度末起債残高33.58億円 ・博物館法第23条:公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる					

施設ごとの方向性(個票)

3

施設名	大阪府立近つ飛鳥風土記の丘		所在地	南河内郡河南町大字東山299	
施設所管課	教育委員会事務局 文化財保護課		開設年	昭和61年6月1日	
施設の概要	設置目的	一須賀古墳群を保存するとともに府民にこれと親しむ場を提供し、もって府民の文化的向上に資する (財)大阪府文化財センター 管理棟(415㎡)、便所(19㎡)、休憩所(23㎡)、展望台(9㎡) 駐車場(普通30台) 敷地面積:255,482㎡ 主な公開施設 一須賀古墳群(国指定史跡)には102基の円墳があり、その内40基を整備、公開	(18)府の収支 (19)施設職員数	府収入	92千円
	管理者			府支出	近つ飛鳥博物館と一体管理
	規模 (収容人員等)			府支出-府収入	-
				利用者1人あたり府費投入額	-
施設建設時の財源内訳	総建設費82百万円 財源内訳(国庫25百万円、一般57百万円)				
利用状況	利用者数	(15)73,542人 (16)72,255人 (17)72,262人 (18)83,478人 (19)88,000人(見込み) 入館料:無料	(18)稼働率・利用率	古墳見学会、考古学教室、体験学習、古墳時代祭りなどを開催	
	主な代替・類似施設	(他府県16施設) ・文化庁の風土記の丘設置構想に基づき、遺跡及び歴史資料の保存及び活用を目的として都道府県が設置する ・2007年現在では、全国16か所に風土記の丘が設けられている(近畿では、大阪府、和歌山県、滋賀県の各1箇所)			
見直しの方向性	【存続・運営の一層の効率化】 近つ飛鳥博物館と一体的に管理していく中で、一層のコスト縮減に努める				
見直しの理由	・古墳群として文化財指定され、府有施設として取得し保存・公開してきた経過から、府による管理が適当 ・ただし、必要最低限の管理、補修にとどめるなど、さらなるコスト縮減に努める必要				
見直しをした場合の効果	[効果額(一般財源)]H20:-、H21:- (※近つ飛鳥博物館に計上)				
見直しをした場合の課題					
備考	国指定の史跡であるため、史跡に影響を与える現状変更は不許可				

施設ごとの方向性(個票)

4

施設名	大阪府立泉北考古資料館		所在地	堺市南区若松台2丁	
施設所管課	教育委員会事務局 文化財保護課		開設年	昭和45年11月1日	
施設の概要	設置目的	考古資料を収集し、保管し、展示して府民の利用に供し、もって府民の文化的向上に資する	(18)府の収支 (決算)	府収入	0千円
	管理者	府直営		府支出	10,831千円
	規模 (収容人員等)	展示館:地上1階(展示室3室)、地下1階 収蔵庫:地上2階、地下1階 駐車場なし 建築延床面積:1,828㎡		府支出-府収入	10,831千円
		主な常設展示 陶器窯跡群出土須恵器2,585点(国重要文化財)など		利用者1人あたり府費投入額	858円
(19)施設職員数		(常勤職員数)	0名		
		(非常勤職員数)	3名		
施設建設時の財源内訳	総建設費96百万円(企業局会計で実施)				
利用状況	利用者数	(15)14,053人 (16)12,833人 (17)13,232人 (18)12,621人 (19)8,008人(1月末現在) 入館料 無料(H8~)	(18)稼働率・利用率	展示スペースのみ 週休2日(月・火)で開館	
	主な代替・類似施設	(国1施設):唯一の民俗学に関する大学共同研究施設 ・国立民俗学博物館(吹田市千里万博公園)・昭和52年開設・建築延床面積:51,225㎡・入館料420円 (府2施設) ・近つ飛鳥博物館(河南町大字東山)・平成6年開設・建築延床面積:5,925㎡・入館料300円 ・弥生文化博物館(和泉市池上町)・平成3年開設・建築延床面積:4,001㎡・入館料300円 (市町村45施設):地域密着型の歴史や文化の収蔵展示施設 ・大阪市立大阪歴史博物館(大阪市中央区大手前)・平成14年開設・延床面積:23,694㎡・入館料600円 ・堺市市立堺市博物館(堺市堺区大仙公園内)・昭和55年開設・入館料200円 ・八尾市立歴史民族博物館(八尾市千塚)・昭和62年開館・入館料200円 (民間25施設):社史、コレクション中心の展示			
見直しの方向性	【市へ移管又は移転・集約化】 ・まず堺市への移管を検討・協議 ・協議の結果、移管できない場合は、展示物、資料等を厳選の上、他の博物館へ移設。施設は撤去又は有効利用 (実施時期) 平成21年度中に実施				
見直しの理由	・設置以降35年以上が経過しており、施設が老朽化している ・市営公園内にあるが、駐車場はなくアクセスが脆弱で、府民の利用者数も低調				
見直しをした場合の効果	堺市への移管又は廃止・撤去による他の博物館施設等への集約化により、管理運営コストを縮減 [効果額(一般財源)]H20:0.00億円、H21:0.00億円(※事務事業見直しによる削減見込み額(管理費等)のみ反映)				
見直しをした場合の課題	・撤去する際は撤去費用が必要であるが、費用対効果はあまり望めない ・移転費用、受入先の改修費必要 ・収蔵庫スペース等の確保				
備考					

施設ごとの方向性(個票)

5

施設名	大阪府立狭山池博物館		所在地	大阪狭山市池尻中2丁目		
施設所管課	都市整備部 河川室 ダム砂防課		開設年	平成13年3月28日		
施設の概要	設置目的	狭山池の治水及びびかんがいにに関する資料等を収集し、保管し、及び展示して、府民の利用に供し、もって土木事業の歴史的役割に関する府民の理解を深めるとともに、府民の文化的向上に資する		府の収支 (18)	府収入	3,405千円
	管理者	府直営			府支出	185,775千円
	規模 (収容人員等)	1階:常設展示室(1,815㎡)、特別展示室(219㎡)、一般収蔵庫(159㎡)、特別収蔵庫(56㎡)、書庫1・2(計86㎡)、写真室(19㎡)、セミナー室(29㎡)等 2階:情報コーナー(111㎡)、ロビー(84㎡)、ホール(126席・154㎡)、会議室(32㎡)、学芸員室(89㎡)等 3階:喫茶コーナー(88㎡)、ロビー(22㎡)等 建築延床面積:4,948㎡ 主な常設展示 ・狭山池の堤(高さ約15m、幅約60m) ・東樋(長さ約60m)、中樋(石棺、重源碑を含む)…いずれも府指定文化財			府支出-府収入	182,370千円
					利用者1人あたり府費投入額	2,047円
		(19)施設職員数		(常勤職員数)	4名	
					(非常勤職員数)	4名
施設建設時の財源内訳	(一般財源) 1.06億円 (起債) 38.69億円 (国庫補助金) 13.25億円 (その他) 一億円	[合計] 53億円				
利用状況	利用者数	⑮80,159人 ⑯77,633人 ⑰68,552人 ⑱89,111人 ⑲67,913人(H20.1末時点) 入館料:無料 ※H18年度の年齢別内訳 中学生以下:40%、高校生~30歳未満:15%、 30~40歳代:20%、50~60歳代:20%、70歳台以上:5% ※ピーク時の利用者数:平成18年度 89,111人		(18)稼働率・利用率	(特別展示室) 59.6% (利用180日/開館302日)	
	主な代替・類似施設	(国) ・淀川資料館(枚方市):淀川の歴史、環境、河川改修事業について展示 ・昭和52年開設 ・入館無料(市町村) ・大阪市立下水道科学館(大阪市此花区):下水道事業について展示 ・平成7年開設 ・入館無料 ・大阪狭山市立郷土資料館(大阪狭山市):石器、武具等の展示(延床面積:280㎡、収容定員60名) ・昭和56年開設 ・入館無料			(ホール) 31.46% (利用95日/開館302日)	
見直しの方向性	【市との共同運営等による有効活用】 大阪狭山市との共同運営等による施設の有効活用や有料化、開館日の縮小、地域協働などの経営改善方策を検討 (実施時期) 平成21年度中に実施					
見直しの理由	・敷地が河川区域に位置することから民間への売却は困難 ・建設後7年しか経過しておらず、起債残高も多額。建物の有効活用策を検討すべき ・狭山池は地域協働の拠点であり、府市連携として共同運用による有効活用方策を検討する方が望ましい					
見直しをした場合の効果	[効果額(一般財源)]H20:0.11億円、H21:0.15億円 (※事務事業見直しによる削減見込み額(管理費等)のみ反映)					
見直しをした場合の課題	将来の大規模改修費用が必要					
備考	平成18年度末起債残高37.53億円(うち政府資金3.97億円)					